序章 「兄弟同士の戦争はやめること」 009
クオン・デ侯の最期――一九五一年／サイゴン陥落――一九七五年／松下光廣の遺品――二〇一〇年／天草の旅――二〇一一年

第一章 隠れキリシタンの里・大江 018
旅館白磯と赤崎伝三郎／カラユキさん、カラユキどん／「南洋で偉い人になって帰ってくる」／急激な人口増加とキリシタンの島／大江村と「天草崩れ」／松下光廣の生家と天理教／「海の向こうに何がある」

第二章 植民地・仏印 062
苦学力行の十年／在留邦人の〝共通語〟は天草弁／ベトナム最後の「グエン王朝」／フランス領インドシナの成立／フランス支配の実態／「勤王の檄」

第三章 大南公司と大川塾 087

大南公司の創業　拡大、成長する大南公司　クオン・デ侯の「現地代行者」　スパイ容疑、国外追放
大川周明の「アジア主義」への共鳴　大川周明とクオン・デ　東亜経済調査局附属研究所

第四章　「東遊（ドンズー）運動」と王子クオン・デ　120

「越南維新会」の結成　ファン・ボイ・チャウの日本密航　クオン・デの出国　「日本留学ブーム」と東京同文書院　日仏協約と留学生解散命令　「安南学生教育顛末」　犬養健・浅羽佐喜太郎　クオン・デ、チャウへの国外退去命令　浅羽記念碑の建立

第五章　クオン・デ、漂泊の日々　155

日本からの脱出　上海で消えたクオン・デ　フランス官憲の目を逃れて　「ベトナム光復会」の結成とチャウの逮捕　クオン・デ、再び日本へ潜入　監視下の日本生活　全亜細亜民族会議での大演説

第六章　日中戦争と日本の南進政策　191

犬養毅首相の暗殺とクオン・デ　クオン・デの恋　安藤ちゑのとの同棲　大アジア主義者たちのクオン・デ支援　日本の南進政策と台湾拓殖会社　海軍士官・中堂観恵の仏印探索　山根道一と長崎・澤山商会　印度支那産業会社の設立

第七章　北部仏印進駐とベトナム復国同盟会　229
日独伊三国同盟の締結／援蒋ルート／ベトナム復国同盟会の結成／台湾からの祖国向けベトナム語放送／日本軍の南寧攻略／松岡・アンリー協定と仏印国境監視委員／ベトナム復国同盟軍の旗揚げ／一転、平和進駐の合意／統帥乱れて／ラップ軍の蜂起

第八章　開戦と松下光廣のサイゴン復帰　267
期待裏切る「静謐保持」／南部仏印への進駐／飛行場建設の突貫工事／山根機関と許斐機関／マレー沖海戦／小松清と小牧近江のベトナム独立運動／「サイゴンの任侠」松下光廣／カオダイ教徒の協力

第九章　明号作戦とベトナム独立　307
「アジア解放」を叫んだ大東亜会議／静謐保持か安南独立か／動き始めた松下軍団／チャン・チョン・キムの独立運動計画案／ゴ・ディン・ジェムとソン・ゴク・タンの救出／クオン・デは「南」、ジェムは「西」／「マ号作戦」から「明号作戦」へ／クオン・デか、バオダイか／「明号作戦」発動／特殊工作隊「安隊」／ベトナム、カンボジア、ラオス、つかの間の独立／チャン・チョン・キム内閣の発足

第十章　日本敗戦とホー・チ・ミンのベトナム　438
ホー・チ・ミンとは何者か　松下光廣のサイゴン脱出　大南社員、それぞれの終戦　フランス軍が帰って来た」　ホー・チ・ミンと小松清　仏越交渉の仲介役　対仏戦争の幕開き

第十一章　「ベトナム現代史」の激流の渦中で　453
復活に向けて　クオン・デの戦後　クオン・デ最後の決意　ゴ・ディン・ジェムの来日　ジュネーブ協定と分断国家　サイゴン大南公司の復活　日越賠償交渉の真実　ダニム発電所建設と大南公司　ゴ・ディン・ジェム暗殺の裏側

終章　南十字星きらめく下で　469
革命政権下の松下光廣　「打倒買弁資本家」　日本政府への〝使者〟　さようなら、ベトナム　クオン・デの遺骨と墓　「家族写真」のナゾ　ドンズー日本語学校　松下光廣の残照

主要引用・参考文献　469

あとがき　478